

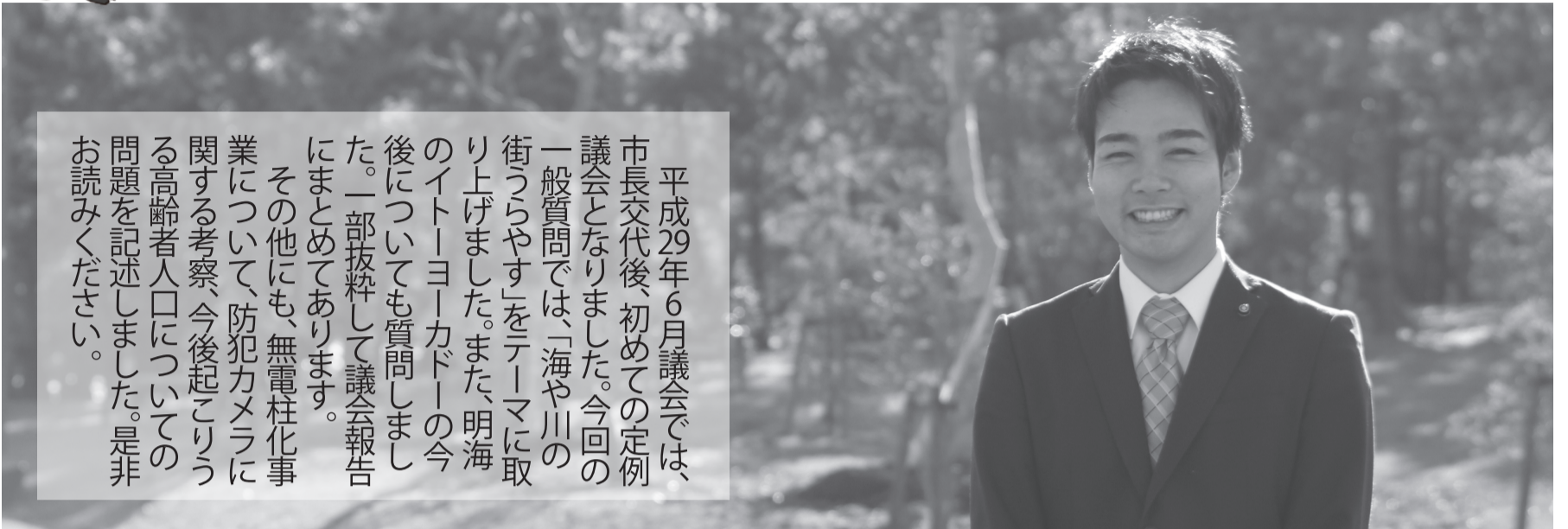


浦安市議会議員

柳きいちろう 議会報告

浦安レポート

2017.7 vol.12



平成29年6月議会では、市長交代後、初めての定例議会となりました。今回の一般質問では、「海や川の街つらやす」をテーマに取り上げました。また、明海のイトーヨーカドーの今後についても質問しました。一部抜粋して議会報告にまとめてあります。

その他にも、無電柱化事業について、防犯カメラに関する高齢者人口についての問題を記述しました。是非お読みください。

未来へつなぐまぢづくり

「海や川の街浦安」の特性を活かした街づくりについて



▲高州海浜公園

浦安市では、昭和63年度にまとめた「浦安市における水際の活用に関する調査報告書」や平成15年度に策定した「三番瀬の保全・再生及び水際の活用に関する基本方針」等に基づき千葉県をはじめ関係機関等と連携しながら市内の水際線整備や活用に取り組んできました。

また、旧江戸川の舞浜地区では、盛り土による緩傾斜護岸を整備することで、護岸を強化しながらも、水際のゆとりある空間を創出しています。これらのように、日の出・明海地区の海岸や三番瀬につきましても、水際に親しめる環境を整備してまいりたいと考えております」と水際線について利活用の推進を語っています。この趣旨の答弁を頂きました。

そのうえで、浦安市民より、親水性の観点から浦安市は海や川といった地域資源を活用しきれないのではという声があるが、どう認識されているのか質問。担当部長より「日の出・明海地区等の護岸は、構造上、一定の親水性を持ちながらも、安全管理上の問題から、管理者である千葉県が立ち入りを制限しており、このため、十分な活用が図

め、新市長に考えを聞ききました。

市長選挙の公約である「海岸・三番瀬の開放」とは、具体的にどのようなイメージを考えているのか

内田市長より、「高州海浜公園の前面では、海をより身近に感じられるよう、護岸の開放にあわせ公園と一体となった修景整備を行っております。また、旧江戸川の舞浜地区では、盛り土による緩傾斜護岸を整備することで、護岸を強化しながらも、水際のゆとりある空間を創出しています。これらのように、日の出・明海地区の海岸や三番瀬につきましても、水際に親しめる環境を整備してまいりたいと考えております」と水際線について利活用の推進を語っています。この趣旨の答弁を頂きました。

「海や川の街浦安」の特性を活かした街づくりについて



▲オープン当日の店内レジ前



Profile

柳きいちろう(本名:柳毅一郎)
1984年(昭和59年) 東京都文京区生まれ
2002年(平成14年) 明治学院高校卒業
2008年(平成20年) 早稲田大学商学部卒業
2008年(平成20年) 株式会社商工組合中央金庫入庫
2011年(平成23年) 浦安市議会議員初当選
2012年(平成24年) 慶應義塾大学大学院経営管理研究科中退
2015年(平成27年) 浦安市議会再当選(二期目)

していきたくて考えています。との前向きな答弁をいただきました。住民の日常生活維持のためにこれからもしっかりとスタートアップベロップメント株式会社地域住民の声を浦安市から届けていた

注目事業

再始動した浦安市の無電柱化事業について



▲電柱が映り込んだ葛飾北斎の赤富士

平成29年6月議会では、約700万円の無電柱化事業の検討経費が補正予算で計上されました。

計上理由として「地震などの災害が発生した場合における緊急輸送路を確保するため、引き続き幹線道路の液化化対策に取り組むとともに、新たに無電柱化の実施に向けた検討経費」とのことでした。ぜひとも推進してほしい事業です。

過去には、平成16年度の無電柱化検討調査の中で、フラワー通りや大三角線の2路線を検討してきましたが、

多大な事業費や電線管理者等との調整が必要なことなど、事業化につきましては課題が多いと判断したことがありま。しかし、時代情勢の変化や、技術革新による低コスト化などを踏まえもう一度、事業検討することになりました。

国においては、無電柱化に伴う法的措置といたしまして、直轄国道において緊急輸送路を対象に電柱の新設を禁止する措置や固定資産税の特例措置の取り組みが昨年度から始まっております。さらには東京都では今年6月に、都道での電柱新設を原則禁止し無電柱化を推進する条例を制定しました。

また平成16年に検討されたフラワー通りや大三角線に加え、順天堂大学医学部附属浦安病院前を通る若潮通りについては、昨年の議会にて「平成26年3月に緊急輸送路として位置づけられておりますが、現時点では無電柱化推進計画には位置づけられていない状況ですが、しかしながら、市といたしましても防災上重要な路線と考えますことから、県に働きかけていきたいと考えています。」との答弁があります。

今回の予算はあくまで「緊急輸送路を確保する」といった防災的な観点から検討がなされ、市域全体を無電柱

化するものではないですが、まずは東日本大震災の経験を踏まえ、防災面を考慮し緊急輸送路について検討していくことが、自身も優先度が高いと考えております。

柳の視点 社会を変える 防犯カメラの役割

平成29年6月議会では、補正予算に公共空間犯罪対策費として233万円が計上されました。これは市内に設置済み全24基の防犯カメラに加え、これまでの警察との協議を踏まえ、5基の防犯カメラの新設を行うための予算です。自身としても市議会にて防犯カメラの増設を訴えてきたところであり着実に進めていたきたい分野です。

市議会議員として日々、活動する際、住民の方から夜道を歩きやすくしてほしいといった防犯対策に関する意見（特に女性より）をよく受けます。



▲浦安市内の防犯カメラ

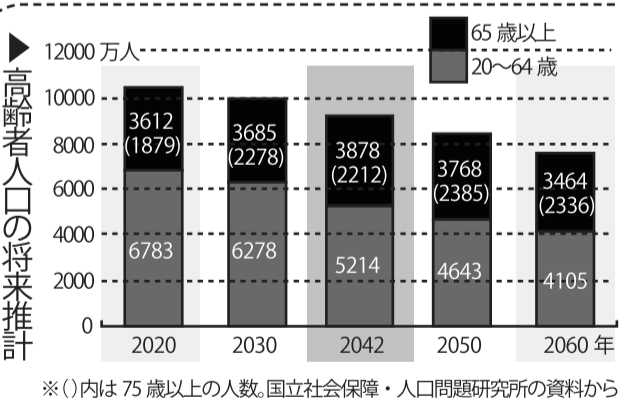
防犯カメラに対する人々の意識も変化しており、以前は防犯カメラを設置すると決まると「プライバシーの侵害」が問題となっていました。最近では、全国的に住民の方から自治体に防犯カメラ設置の要望が出たり、賃貸マンション等では「防犯カメラ設置済み」がセキュリティ上のアピールになっていきます。防犯カメラそのものに対する世間の受け止め方が転換している気がします。

「子どもの安全を守ることは言うまでもなく、2020年の東京オリンピック開催に向け訪日外国人観光客が急増し、安全な街づくりの意識が高まる中、防犯の目を行き届かせていく必要があります。交差点や街路灯・公園灯等に防犯カメラを設置する」となると、必ず「予算」の壁があるのは確かです。また道路には、国道、都道府県道、市区町村道・私道の別に管理者が異なったり、電柱には電力会社・通信会社・両者の共用柱があったり、信号機や道路標識は警察、案内標識は国土交通省が管理しています。どの電柱や鉄柱に防犯カメラ

編集後記

うだる様な暑さの中、皆さまいかがお過ごしでしょうか。去る6月30日、定例議会が閉会しました。内田新市長は、冒頭の挨拶で、「10年後、20年後、もっと言えば半世紀先を見据え、今やらなければならぬことは何かを判断し、山積する課題に取り組んでいく」と述べられております。このスローガンは同感であり、長期スパンの行政経営が求められます。そこ

で何が将来にわたる問題かと考えた際、人口減少社会についての対策が高い優先度を持つのではないかと考えております。



※()内は75歳以上の人数。国立社会保障・人口問題研究所の資料から

ラを設置するか、導入費用や維持管理は誰がやるのかなど、いろいろな課題はありますが、警察を中心に連携し、さらに推進していただきたいと思っております。そして自身としても皆様から頂いた防犯面の懸念についても、しっかりと市政へ反映して参ります。

「10年後、20年後、もっと言えば半世紀先を見据え次世代にしっかりとした日本として浦安を残すために、真剣に今できることを提言して参りたいと思っております。」

柳きいちろうへの連絡はこちらからお願いいたします。
住所 279-0013 浦安市日の出 1-3-3-1203
TEL 050-3630-8791
E-mail kiichiro.yanagi@gmail.com